



笹栗議員

特定健診を無料化

今年度から受診率向上をめざす

福岡・糸島市

福岡県糸島市は今年度から、脳卒中や心筋梗塞などの生活習慣病の早期発見や重症化を予防するため、特定健診の受診率向上をめざし、受診費用に掛かる個人負担金（1000円）を無料化した。これは、市議会公明党の笹栗純夫議員の提案が実現したもので、市民や関係者に喜ばれている。

同市の特定健診対象者は、40～74歳までの約1万8000人。健診項目は、身体計測や血液・心電図検査などで検査結果に応じて、特定保健指導も行われる。市立健康福祉センターや校区公民館など

平成二十三年十二月議会より、いく度も訴えてきました特定検診の自己負担金（千円）の無料化度が今年度から実現できました。

糸島市の特定検診対象者は四十歳から七十四歳までの国民健康保健加入者の方で約一万八千人おられます。

脳卒中や心筋梗塞など生活習慣病の早期発見・重症化の予防に向け、重度だけでなく、軽症の高血圧に人も新たに心電図検査の対象になりました。

特定検診が無料化に！ 今年度より無料化実施

平成二十三年十二月議会で地域防災の充実と底上げの必要性を訴え、災害用備品の設置などを提案していましたが、今年度から指定避難所の各校区公民館に、次の災害用備品が設置されました。

- ① 折りたたみ式リヤカー
- ② 発電機
- ③ 投光器
- ④ 担架

自主防災組織を充実



前原公民館の松浦主事と災害用備品を点検する笹栗議員

福岡県糸島市は今年度、市議会公明党の笹栗純夫議員は先ごろ、市内の各校区公民館に発電機などの災害用備品を設置し防災対策を進めている。昨年からは、全国でも例がない20戸単位の自主防災組織設立を進行。推進を果たしてき

政区で進めている。更から、自主防災組織の充て、市議は先ごろ、市内の各校区公民館に発電機などの災害用備品を設置し防災対策を進めている。昨年からは、全国でも例がない20戸単位の自主防災組織設立を進行。推進を果たしてき



糸島市が管理する公園の砂場がつかえないとの市民相談を受け、早速現地調査を市に依頼しました。その結果、約2週間で新しい砂場となりました。公園の隣のお住いの子育て中の方にお話を伺うと「砂場が綺麗になり安心して子どもを遊ばせることができます」と非常に喜んでいただきました。子育て支援とは、子育てしやすい環境を整えることも大事な視点である事を実感しました。

糸島市の地域防災の具体策と 地域主導の再生可能エネルギー普及 等について質議をいたしました。



笹栗純夫(ささぐり すみお)
平成14年より前原市議会議員として活動。平成22年1月「糸島市」誕生、2月に糸島市議会議員当選。
■建設産業常任委員会委員
■糸島市監査委員(議会選出)

6月議会で一般質問するにあたり、新年度に入り4月、糸島市民の皆様と、地域防災を主に、約20回、懇談会を開催させていただき、貴重なご意見を賜りました。5月に入り、災害危険箇所を抽出し、現場に出かけて確認。市民の皆様から頂いたお声を如何に反映するのか。その課題を解決するために5月中旬、防災先進地の静岡県と消防バイク、ミストシャワーの効果を確認するため東京に参りました。市民の皆様からいただいたお声を集約し、咀嚼し、政務調査で学んだ事項も紹介しながら議会において、発言をさせていただきました。

「地域主導型再生可能エネルギーで電力自給率100%を目指さないか。」
■そのために電力の地産・地消を目指すべきではないか。
■また、再生エネルギー促進のため推進アドバイザーの助言をもとめたらどうか」

(市長答弁)
国でも、モデル事業がスタートしたばかりだがこの事業により、再生可能エネルギー設備の立地に対する地域の理解も得やすくなると考えられる。また地域内所得の向上や雇用の場の確保につながることも、十分予測されることから、市でも注視していきたい。電力自給率の向上、電力の地産地消を進めていく事は市にとっても重要な課題となる。そのために来年度「立地可能性調査」も行う予定にしており、これらを活用しながら、再生可能エネルギーの導入を着実に進めていきたい。

糸島市あげて「家族防災会議」「職場防災会議」の打ち出しをすべきと考えるが、市長の見解は

(市長答弁)
災害時には自主防災組織のような共助も重要であるが、阪神大震災の例にもあるように、7割の方は自らの力によって助かっておられる。いわゆる「自助力」はいざという時には、共助や公助よりも大きな力になることは間違いない。阪神大震災以降、災害時の役割は、自助が7割、共助が2割。公助が1割といわれている。この割合は万が一の場合には、まずは他人や行政に頼る事なく、自らが考えて行動する事がいかに大事かという事を表している。そこで日頃から災害に対する備えや災害時の対処方法を身につけ、いざという時に一人ひとりが落ち着いた行動ができるよう「家族防災会議」を開いて話し合うことは有意義と考える。いろんな機会を捉えて発信していく。



6月議会 個別質問より

昨夏の「節電の夏」の総括と今夏の 本市における節電の取組みについて伺う

(部長答弁)

総括として、市全体の節電は、九電管内の節電率「7%」を2.2ポイント下回っており、市民・事業者、により一層の節電を呼び掛けていく事。公共施設も15%の目標に対し13%の節電ができたものの、目標に達していないことから、引き続きより一層の節電に取り組む必要があると思う。市では市民・事業者むけに**ライトダウンキャンペーン**の呼び掛けなどの取組を中心に節電依頼と啓発ポスター・チラシの配付を行い、節電の協力をお願いしていく。また、公共施設は新館1階から4階の事務スペース**照明のLED化**工事などを実施して一層の節電に取り組んでいく。

猛暑対策(熱中症対策)として学校現場に 「ミストシャワー」の設置を！

(部長答弁)

3月議会において議員指摘の東京都国分寺市について聞き取り調査を行った。他団体において、ミストシャワーを設置している公共施設もあることから、**本年度は小中学校、各1校ずつモデル校を設定し、試験的にミストシャワーを設置し、その効果について検証**を行っていく。

※ライトダウンキャンペーン

毎年夏至の日を中心に全国のライトアップ施設の消灯を呼び掛けるイベント。ライトアップに慣れた日常生活の中で、電気を消す事により、いかに日頃、照明を使用しているか実感し地球温暖化問題を提起する事を目的としています。

※ミストシャワー

教室の扇風機とミストシャワーを組み合わせれば、更に体感温度を下げる効果があり、学習効果もあがると言われています。



セルフ給油所での灯油にガソリン混入の疑いに対する緊急申入書

平成24年5月14日、糸島市長に対し「セルフ給油所での灯油にガソリン混入の疑いに対する緊急申入書」を渡し回答を求めた。糸島消防本部としては、今後も立ち入り検査の実施と注意喚起を促し、また販売記録等についても速やかに把握できるシステムを構築するよう指導を行い、再発防止に向け全力で取り組むとの回答を得た。

6月議会 個別質問より

広域避難も想定されるため、 自主防災リーダー育成で 避難所運営ゲーム(HUG)導入が 必要と思われるが見解を伺う

(部長答弁)

自主防災組織の強化を図っていくためには、その核となるリーダーの育成は必要である。まずは今年度、校区ごとに自主防災組織のリーダーとなる会長や班長を中心に、糸島防災士会(手まがえ隊)の協力を得て、避難経路や危険箇所を図示していく図上訓練(DIG)を実施することになっている。

避難所運営ゲームを自主防災組織のリーダーに体験してもらうには、まずは職員が理解しておく必要がある。既に実施している自治体を参考に本市でも実施できるように勉強していきたい。

消防自動車、救急車の侵入困難地域が 179箇所、1,324棟あると判明したが 今後、消防本部と連携して 侵入困難地域解消に向けて、 連携して事業を進めるべきと判断 するが、見解を伺う。

(部長答弁)

緊急自動車の進入困難地域解消のため、狹隘道路整備事業、セツトバック事業を実施しているが狹隘道路整備事業については、平成22年度から25年度にかけて、市道2路線、385mを幅員4mに現在拡張中で、また、セツトバック事業についても平成22、23年度に約700mを幅員確保のため実施している。

今後も緊急自動車の進入困難地域の道路整備については、消防本部と連携して、可能な限り進めて参りたい。



静岡県危機管理部でHUGの説明を受

※避難所運営ゲーム (HUG)

静岡県が開発した避難所の運営を市民自らが模擬体験するゲーム。実際の避難所運営において、事前にその手法を習得しておくことは、非常に有効といわれています。



事故・災害の初期活動に機動力を発揮する 「消防活動二輪車」の配備を！

(消防長答弁)

現在、総務省消防庁が消防バイクの全国的な運用状況の実態調査を実施し、消防本部に適切な助言を行っていく方針と聞き及んでいる。その結果を踏まえ、検討したいと考える。

※消防活動二輪車

オフロードタイプの250ccバイク。機動力に優れ、災害時で不良状況下でも走行可能。東京消防庁は2台一組で出動し、荷台に消化器や空気を圧縮して水を噴出させるタンクを搭載。木密地域の初期消火に有効で、消防車両の入らない地域で効果を発揮するといわれています。